

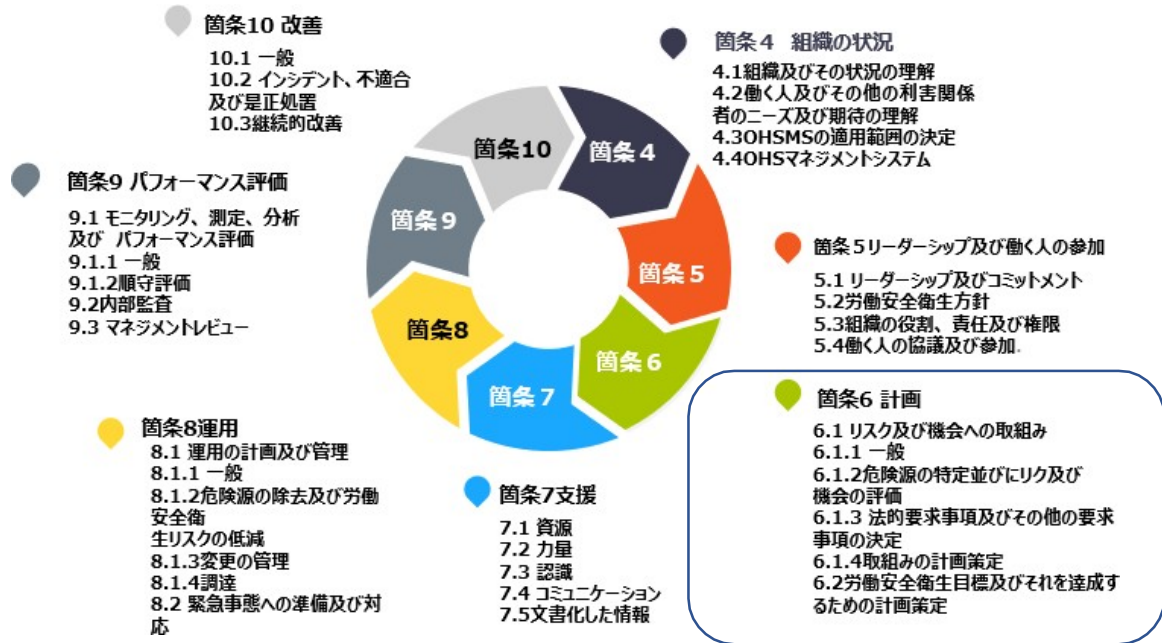
アサヒロジ社 安全マインドセット 副教本

第3章

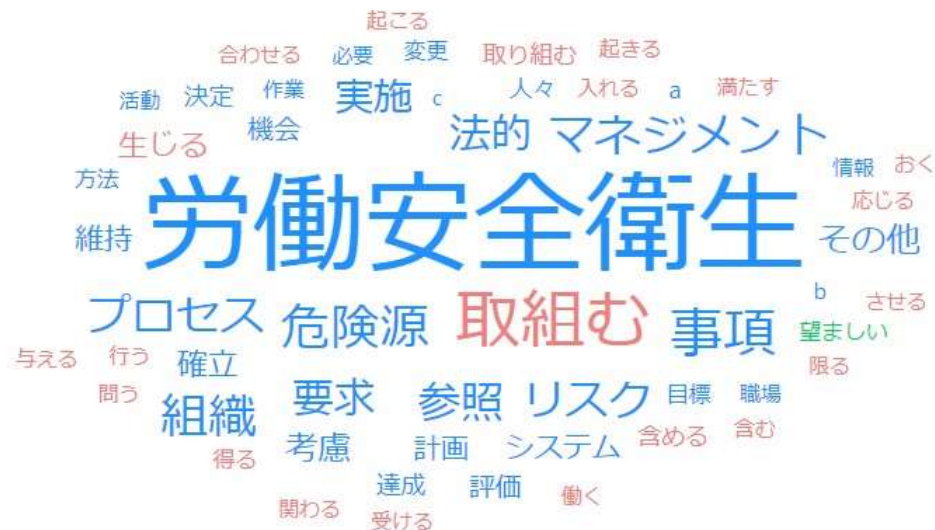
Safety Mindset Supplementary reader



6 計画



筒条6 計画の、筒条6.1 リスクおよび機会への取り組み、『今はまだ起きていないけれども、その先に何が



起きるか分からない、もし起きた時にどういう手を打ったらいいか分からない』、というテーマ解決をするステップです。計画を立てるときに、チームコミュニケーションで6.1から6.2までの項目について、話し合うことをすすめます。家庭生活、会社生活、社会生活を安全、安心に過ごすには、リスクセンスとリスクアセスメントを定着させることは非常に重要です。

危険源があれば、危険源を取り除く、そして設計段階から危険源を存在しないようにする「本質安全設計」のステップを使います、実際は危険源を完全に除去しきれない場合が多く、そのためのリスクの

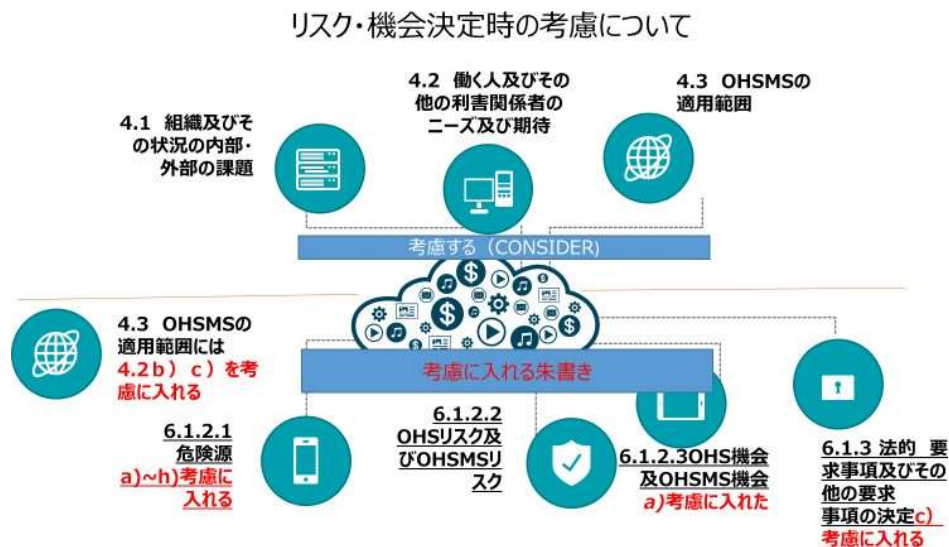
許容レベルを決めて残留リスクを制御して許容レベル内にとどめていく、これをリスクアセスメント技術と言います。リスクアセスメントのe-learningコースを訪問してください。

次は、規格和訳で誤解を受けないために、書きました。

***考慮する (consider) の意味**は、「必要はある」と考えておく、しかし、ISO規格の上では、「不採用とする」こともできます。(ISO 規格上は要求項目ではありません、組織のトップが決め、より高い安全レベルにする安全文化を構築ください)

考慮に入れる (take into account) は、採用しなければなりません

箇条 4 と箇条 6 の関連を図で表しています、



“Column この章は、リスクが多く出てきます。リスクと機会について。

a) 労働安全衛生リスクは労働に関係する危険が起きる事象や、ばく露の起こりやすさ、その事象またはばく露によって生じるケガ負傷および職業病の大きさ・重大性。起きたこと、起こりうることに人が及ぼす影響の程度を判定のひとつの式です。

$$\text{Risk} = \text{事故の影響度 (広い・深い、持続時間)} \times \text{発生頻度}$$

b) 労働安全衛生チャンスは労働安全衛生パフォーマンスの向上につながり得る状況。

c) 労働安全衛生パフォーマンスは働く人の負傷・疾病防止の有効性の結果および安全健康的な職場の提供の結果が測定できていること。”

6.1 リスクと機会への取り組み



6.1.1 一般

安全管理の計画を策定するとき組織は 4.1の内部、外部の課題、4.2.利害関係者、4.3.安全管理の適用範囲に規定されている要求事項を考慮し、取り組む必要があるリスクと機会を決定しなければなりません。a) 安全管理の目標成果を達成できるという確信を与える。b) 望ましくない影響を防止、低減する。c) 継続的改善を達成する。

組織は安全管理の目標に取り組む成果を出すために、リスクと機会の決定に考慮しなければならないことは、危険源、安全衛生リスクとその他のリスク、安全機会とその他の機会、法的要求事項、その他の要求事項があります。

計画するプロセスにおいて、組織、組織のプロセス、または安全管理システムの変更に伴い安全管理システムの成果に影響する関連リスクと機会を決めて評価しなければなりません。計画的な変更が永続的か暫定的に関わらず変更を実施する前にはリスクと機会のアセスメントをしなければなりません。(8.1.3

変更の管理に関連しています。)

“質問” 一般的に変更管理をしていないときに、ケガ、事故が起きています。“変更しても変更管理はしていない”とか、“変更管理はしなかった”、記憶ありませんか？

組織が維持しなければならない情報は、

リスクと機会の文書は、計画通りにリスク、機会を決定し、対処、実施するプロセスと取組みに関する文書です。

6.1.2.1 危険源の特定

組織は危険源の現在の状況から危険源を特定する先取りのプロセスを確立、実施、維持しなければなりません。

a) 作業の編成の仕方、社会的要因（作業負荷、作業時間、虐待、ハラスメント、いじめなど）、リーダーシップ及び組織の文化

b) 次の1)以降から生じる危険源を含めた定常的及び非定常的な活動と状況

1) 職場のインフラストラクチャ、設備、材料、物質、物理的条件

2) 製品及びサービスの設計、研究、開発、試験、生産、組立、建設、サービス提供、保守及び廃棄

3) 人的要因

現場巡視時にリスク発見に含むべき要素

1. 設備の危険源：

機械的、電気的、熱的、騒音的、振動による、放射による、材料・物質による、機械設計時における人間工学原則の無視、滑り・踏み・墜落による危険源と組み合わせ、使用される環境による危険源

2. 作業の種別と作業の流れ（時間）：

定常作業（準備作業、本作業、付帯作業、後作業、付帯作業、等）非常作業（異常処置作業）低・高頻度作業

3. 時間軸の網羅（ライフサイクル）：

機械設備の設計、据え付け、廃棄にいたる作業工程の初めから終わりまでの危険源を特定する



職場のリスクが 1.~3.の要素について網羅的に（抜けなく）抽出されている必要があります。

4) 作業の実施方法

c) 緊急事態を含めた組織の内部、外部で過去に起きた関連のあるインシデントとその原因

d) 起こり得る緊急事態

e) 次の事項、及び人々

1) 働く人、請負者、来訪者、その他の人々を含めた、職場に出入りする人々、人々の活動

2) 組織の活動によって影響を受け得る職場の周辺の人

3) 組織が直接管理していない場所にいる働く人

f) 次の事項を含めたその他の課題

1) 関係する働く人のニーズ及び能力に合わせる配慮を含めた、作業領域、プロセス、据付、……手順、

作業組織の設計、2) 職場周辺の状況、3) 職場周辺の組織の管理下でない、リスク状況、g) 変更

管理、h) 安全管理上の危険源についての知識、情報の変更

6.1.2.2 安全衛生リスクと安全管理に対するリスクの評価

組織は a)以降のプロセスを確立、実施、維持しなければなりません。a) 既存の管理策の有効性を考慮し特定した危険源からの安全リスクを評価 b) 安全管理の確立、実施、運用、維持からのリスクを決定し評価する。

組織の安全リスクの評価方法と基準は問題が起きてからの事後対応ではなく、事前に体系的に行うことを確実にする。方法、基準は文書化情報として維持し保持しなければなりません。

“コラム、現場で見るべきリスクを今回、何にするか、そしてパトロール後のリスクアセスメントをする。

安全衛生リスク低減の計画を作り、現場対話型コミュニケーションパトロールを計画、その計画スケジュールに基づき、危険源をみつけてください。

6.1.2.3 安全の機会と安全管理その他の機会の評価

- * 機会について：規格の英語は opportunity です。特定の目的や願望のため、組織、自分が何らかの向上を求めて努力している分野で、大きく伸ばすことができる可能性のある『機会はチャンス』という意味で理解ください。

組織は以下の事項を評価するためのプロセスを確立、実施、維持しなければなりません。

- a) 安全パフォーマンスを向上するための機会（チャンス）に、組織、組織の方針、プロセスや組織活動の計画的な変更を考慮し採用すること。1) 作業、作業組織と作業環境を働く人に合わせて調整する機会 2) 危険源を除去し、安全リスクを低減する機会 b) 安全管システムを改善する機会（チャンス）

6.1.3 法的要求事項とその他の要求事項の決定

組織は次の事項のためのプロセスを確立、実施、維持しなければなりません。 a)組織の危険源、安全リスクと安全管理に適用される最新の法的要求事項とその他の要求事項を決定し入手する。 b) これらの法的要求事項とその他の要求事項の組織への適用方法、コミュニケーションする必要があるものを決定する。 c) 組織の安全管理を確立、実施、維持し、継続的に改善するとき、これらの法的要求事項とその他の要求事項を考慮に入れる。

組織は法的要求事項とその他の要求事項の文書化情報を維持し、保持し全ての変更を反映して最新の状態にしておくことを確実にしなければなりません。

6.1.4 取組の計画策定

組織は以下の事項を計画しなければなりません。

a) 実行するための取組み

1) 決定したリスクと機会に対処する（6.1.2.2と6.1.2.3 参照） 2) 法的要求事項、その他の要求事項に対処する（6.1.3 参照） 3) 緊急事態への準備をし、対応する（8.2 参照）

b) 次の事項を行う方法:

- 1) 取組みの安全管理のプロセス、またはその他の事業プロセスへの統合と実施
- 2) その取組みの有効性の評価

組織は取組みを計画するときに、管理策の優先順位（8.1.2 参照）と安全管理からのアウトプットを考慮に入れなければならない。

取組みを計画するとき成功事例、技術上の選択肢、財務上、運用上と事業上の要求事項を考

慮しなければなりません。

6.2.1 安全目標と達成のための計画策定

組織は、安全管理と安全パフォーマンスの維持と継続的な改善のために、関連部門と階層において安全目標を確立しなければなりません（10.3 関連参照）

安全目標は次の事項を満たさなければならない。a) 安全方針と整合している。

b) 測定可能（実行可能な場合）である、パフォーマンス評価が可能である。

c) 次を考慮^{*}に入れている。1) 適用される要求事項 2) リスクと機会の評価結果（6.1.2.2 と 6.1.2.3 参照）

3) 働く人と働く人の代表との協議（5.4 参照）の結果 d) モニタリングする e) 伝達する、f) 必要に応じて更新する

6.2.2 安全目標を達成するための計画策定

組織は安全目標をどのように達成するかについて計画するとき、次の事項を決定しなければなりません。

a) 実施事項、b) 必要な資源、c) 責任者、d) 達成期限、e) モニタリングするための指標と結果の評価方法、f) 安全目標達成に向けた取組みを組織の事業プロセスと統合する方法

組織は安全目標とそれらを達成するための計画に関する文書化した情報を維持し、保持しなければなりません。

“コラム

労働安全衛生パフォーマンス向上の例です。

施設、設備のライフサイクルの早期の段階で安全管理を統合することやパフォーマンス向上の対策の優先順位を明確にし、危険源の除去、削減、施設移転、プロセスの再設計、装置、機械やプラント機器の交換の計画的実施、パフォーマンス改善に新技術を採用し、単調な労

働や 作業量を軽減するパフォーマンスの改善をする。

要求事項以上に、安全に関わる力量（技量、技術力、知識、IT ）を上げる、インシデントを遅滞なく報告し、報告する安全文化に挑む。”

トップマネジメントによる支援とトップマネジメントによる重大なヒヤリハット、災害調査プロセスの改善、働く人の協議、参加プロセスの改善、各職場組織の過去のパフォーマンスを考慮した、ベンチマークの設定、実施、安全を取り扱うテーマの全員参加による協働など。思いもしない結果がおきないようにするには、リスクに対して、たとえ軽微な小さな変更でも変更実施管理の必要があります。”

演習 リスク及び機会への取組みの事例研究

【フォークリフトでの運搬作業】(支社・支店で該当する資料を準備する)

（実際の安全活動の仕事をチェックするときには 6.1.1～6.1.2 までを管理者、リーダー、作業者の皆さまで進めてください。）

“コラム

前章で確認したときの○、△、✕に沿って危険源、各リスク、機会（チャンス）、順守義務への改善案を決定して、必要な資源（人員、時間、施設、機器、資材、教育・訓練等）、タイムスケジュール、監査（モニタリング）方法、評価方法を決めれば取組み計画策定は完成です。しかし、危険源及び各リスク、各機会（チャンス）、順守義務に対する改善案をすべて網羅した計画が望まれますが、教育・訓練計画、手順書等による運用、チェック、点検などの短期的な計画でなく、中期的計画をたて個別、個別に

全員参加で計画することです。まず、フェルトリーダーシップの発揮、率先垂範、ABC（当たり前のことをぼんやりせずにちゃんとやる）管理です。改善に無理がある場合は技術的課題、安全投資の財務的課題、支社、支店の改善実施項目の優先順位付けをして、幹部間・関係部門間の協議、同意・承認を得て常に何がどのように進んでいるかを目でみる管理とすることが必要です。

規格の a)管理策を決定したリスク、機会に取り組む、b)順守義務に取り組む、c)緊急事態準備をして対応する、これらの意識・認識があればうまくいきます。”

“コラム

実施事項はモニタリング手法や責任者等のチェックが必要です。安全の取組みは、トップダウンが重要とされていますが、「働く人との協議・参加」が必要です。働く人の納得が成功につながるからです。実際、安全な業務を行うには、ハード系の設備・装置の安全は重要です、心理的安全性、ソフトの適度な緊張感、働く人の気持も重要であり、業績も向上し、災害は発生しない。トップダウンだけでは、働く人の気持は業務への集中を欠き、集中しなくなり、協議して決めても安全管理は実施しなく、できなくなる。結果、災害が発生します。どんなに良いシステムでも人が参画し決定し、実施する。人の認識、意欲といった「“みんなでやろう”とする職場文化、と雰囲気」が重要です。”



Coffee Break